

# 仏法領ぶつぽうりょう

## 第69号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org

### 蔵持山の杉

八百年前の人は  
何を考えて杉を植えたのだろうか  
子や孫のために  
未来を見据えていたのだろうか

今を生きる私達は

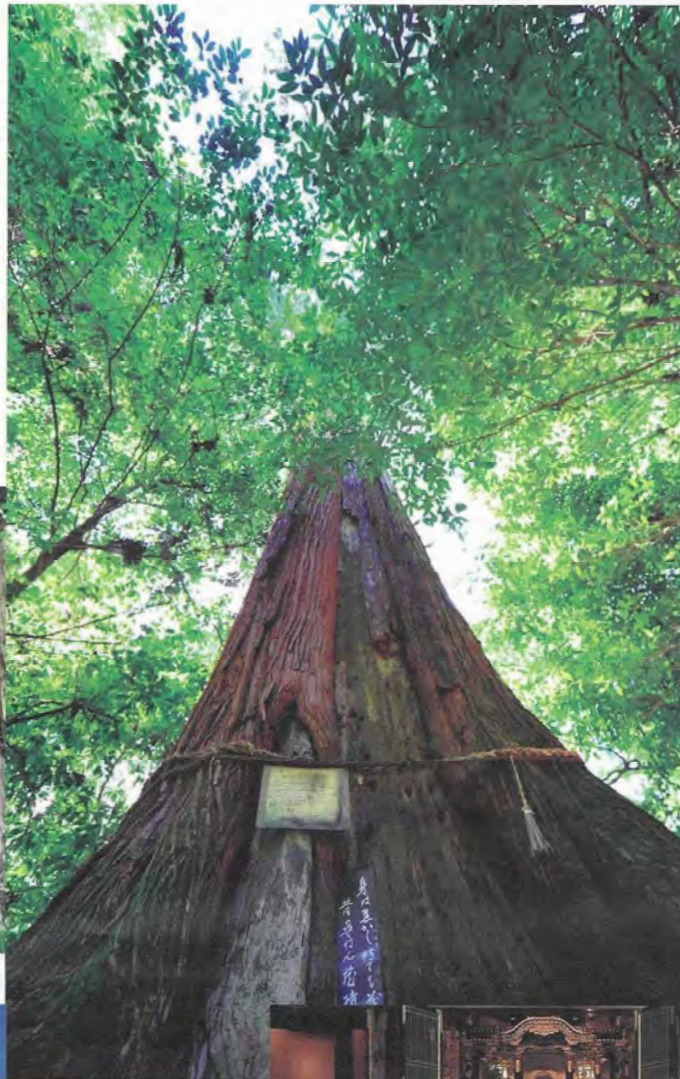
子や孫のために

何ができるのだろうか

立ち止まって

考えてみよう

(写真・文 大迫 光浩)



北九州・日野家



福岡市・豊田家

### 何のために生きるのか

ラジオで聴いたのですが、「仕事は何のためにするのか」、高校の授業で考えたところ、今と昔で違うところが一つあるらしい。

生活のため、生きがいのため。昔の人はそれにも一つ。世の中のためがあったのだと言います。それだけでなくの現代人は、生きることが狭い範囲の自分中心になっているということでしょうか。

ところで、いのち終わるときにあなたは何を大切なものとしませんか？

人それぞれ、ゴルフ、お酒、パソコンなど、今まで自分が快適に過ごすために身の回りに置いていたものに用がなくなつたとき、何が大事だと思いますか。自分にとって大切な人、家族でしょうか？

ある女性は故郷の川を挙げました。その方には川は、自分のいのちを超えたいのちの源なのでしょう。心と身体が「私」で一つになっていますが、その「私」が日々尊く生きがいを感じているのでしょうか？

納骨堂にお参りする度に顔を見せてくれる人。お盆に帰省して会う家族。故郷のお寺を大切にしてくれる家族。事情は様々ですが、お寺のまわりには出あいがあります。



骨壺を開けて先祖のお骨を見てご覧下さい。自分の思いを超えたいのちの歴史に「私」がいることに大きな感動を覚えるはず。生かされている意味、生きがいを見出すことは、そこから始まるのだと思います。



**概要**

**【来て見てギャラリー情報】**

- みやこ町厚川地区で毎年1回開催  
これまでに10回開催している
- 24年度は10月27日～28日に開催
- 民家をギャラリー（画廊）として開放し、焼き物や木工などの作品展示や食事を提供し来場者におもてなしをするという内容
- 当初の来場者数は250人だったが、年々増加し、現在は800人程度に、リピーターが多いのも特徴
- ギャラリーの目印として黄色い旗が道標に立てられている



何年か前の説明文です。


◆お寺でのイベント◆案内◆  
「おらが町に来て見て ギャラリー」に参加！

昨年「ひきつづき」おらが町に来て見て「ギャラリー」に参加します。

実施日は2017年  
10月28日（土曜日）  
29日（日曜日）

9時～午後4時まで  
9時～午後3時まで

皆様は趣味で作られている手作りの作品展や、農産物等の即売会場（テント）も設けます。出品して下さる方はお知らせください。



**全体は一人のために  
一人は全体のために**

紘ちゃんのひとり言

我が添田町は、農業委員会が立てた安全職が各地区ではためいている。今まさに稲刈りの真っ最中である。5月中旬に植えた苗が8月末に稲刈り、温暖化の影響とはいえ例年より1週間も早い。6月には50年に一度の集中豪雨により、添田は甚大な被害を受け多くの農地が流された。早期の普及を願うばかりである。

先日の日曜に、多面的機能支払い制度による農道の草刈りと水路法面の草刈りによる地域の10人ほどで行った。

多面的機能支払い交付金制度とは水路、農道、ため池等農業を支える共用の設備を維持管理するための地域の共同作業に支払われる交付金である。

この制度は、農業者を主体に地域住民、老人会等多くの人に参加していただき地域農業を支え守っていくための制度である。

私の地域も高齢化と離農により、数少ない担い手に多くの負担が掛かっている。それだけに地域住民の皆さんの協力に大いに感謝、感謝である。

これも全体は一人のために一人は全体のためにである。

昭和53年頃の話である、私の勤務している会社が倒産しそうとの情報が入ってきた。

その頃私は組合の委員長をしており、すぐさま組合幹部を集め今後の対策を話し合った。

**お寺でイベント**

**秋彼岸落語会のご案内**

**オテラクゴ**  
お寺で落語します！



初心者でも気軽に楽しく笑えます。  
興味のある方は、ぜひいらしてください。

■場所 念信寺本堂（みやこ町厚川上高屋761）  
■時間 9月24日（日）夜7時からお勤め、7時30分から落語

■木戸銭 一人300円  
ただしお取持をくださった方は無料入場券3枚を進呈します。

- ◆四代目 桂 梅園治（桂 春園治門下・1980年入門／上方落語協会所属）
- ◆二代目 橋家 蔵之助（橋家 圓蔵門下・1981年入門／落語協会所属）
- ◆桂 小梅（桂 梅園治門下・2011年入門／上方落語協会所属）

お問い合わせ：念信寺（TEL：0930-42-0329）

↑ 9月24日夜7時より落語会です。



**お盆法要で「死の体験旅行」しました！**

例年、8月16、17日、上高屋地区のみ案内で法要を行っています。今年は趣向を少し変えて行いました。

- ①最初に納骨堂
- ②次に本堂で遠方や事情があつてお参りできない方のお盆を合同で
- ③最後に「死の体験旅行」を山口芳弘さんの生ピアノ演奏をバックに、さらに奉納演奏を行いました。



結論として、倒産したときには1円でも多くの金を組合員に渡したい、そのための交渉を、全国組織の組合の協力を受けながらやるということになった。

さて、話し合いの日となり、私たちは全国組織のオルグの方に今の状況を説明し協力をお願いしました。するとオルグの方は少し間を置いておもむろに、「皆さんの話はわかりました、しかしそういった話には協力ができません。組合は会社があつてこそその組合であり、働く場を確保するための組合です。皆さんが、会社再建のために頑張る気持ちであればいくらかも手助けします」。

この話を聞き、私たちは社会の基本的な事に気づき、すぐさま組合員全員を集め話し、全員の協力を取り付け、全国組織の組合の協力を得て9ヶ月後には再建のめどが立ったのである。

全体は一人のために一人は全体のために、この言葉はそれ以降の私の人生でのモットーである。  
(尾形 紘光)



ひと

みやこ町犀川上高屋にお住まいの YK さんを紹介します。

こんな風にいうと堅苦しく聞こえるでしょうが、ざつくばらんに言うと念信寺さんに一番近いところに住んでいる方です。これこそ指呼の間というのかもしれない。指をさして話せば聞こえるくらいの近いところのこと。実際には、K さんがお嫁入りされた時には、お寺が中宿だったそうです。



YK さん

K さんは、昭和十年生まれといえますから、八十一、二歳かと思えます。面談させていただいておりますと、お話もよどむところがなく、誠に健康そのものと拝察いたしました。写真をご覧いただいてもよくお分りかと思えます。

その秘訣は、日々の畑仕事と家屋敷の維持保全作業にありそうです。現在でも草退治には自ら草刈機を担いで戦っているそうです。

つくねイモは見事に育ち、広い庭も手入れが行き届いており、家の周囲はきれいに刈り込まれておりました。



現在は一人でお住いですが、四人の子供さんたちはみんな県内に住んでいらっしゃるのとことです。子供さんやお孫さん達は来宅したときは、先ずは必ず仏壇に合掌し、帰宅するときも、もちろん仏壇に参り、お帰りになるそうです。

K さんは、何かかするときには必ず、仏壇や先祖の写真に話し掛けるそうです。「今からデイサービスに行ってくるからね」という具合。だけど、仏さまは何も答えてくれたことはない、とのこと。答えてはくれないが、見守ってはくれているということでしょうね。

仏さまというのはそんなものなのかもしれませんね。

(阿部正紀・記)

合掌

「本人がしづるのを説得して登場してもらいました。それは生活の様子とともに次のことを紹介したかったからです。」

K さん(そう呼ばせてもらいます)は、縁がある家のお墓掃除、お盆にお参りする方の接待まで、陰になり日向になりながら、なさっています。

最近、住職はお墓移転の相談をされることが多くなりました。子どもさんたちが故郷の里山にあるお墓を維持するのは難しいだろうと。そのような心配がどうして起こるのか。原因は、過疎化、核家族化など一つではありません。

しかし、このようにふるさとを守る方が少なくなり、人間関係が薄くなったこともひびいているのだと思います。

(住職)

皆作・永代経法要のレポート

日時 六月二十四日〜二十六日

講師 松月博宣 先生(糸島市 海徳寺)

松月先生は二年連続三回目の法座です。熱く語っていただいた要約を述べてまいります。



「聴聞」とは身を運んで聴く、「聞」は聞かせること。「信心」を聞くこと。「信心」とは私の心でない、まことの心と読みます。仏さまのご信心を聞いて私たちは救われます。次に「聞法」とは法

を聞く。仏さんの心の話です。「法」とは「真宗」のことです。「宗」とは中心であり働きです。「真宗」は真実の働きで変化しないものです。私たちは変化しない「真実」で生かされています。一方では心の変化は是とされます。変化があるから進歩もあると。仏の心はいつでもどこでもいかなる人(万人)の上にも等しく働いています。「信心を聞く」が真宗であり、その「信心」をいただいて救われます。「聞いて聞いて納得する」、ここで合掌です。

次に、先生は「阿彌陀如来と浄土の存在を問う自分の心は間違いない」と指摘されました。例えば「親の恩」「人様の恩」は見えるものではなく、



感じることで分かる世界です。その存在をあるかないかと論じるのではなく、感ずるか、感じないかである、と。感じるように自分自身でセンサーを育てる。あるいは亡き先人の力が働いて感じるように育ててくれるでしょう。「浄土」とは悟りの国です。「悟り」とは「一如」なり。「一如」と「分別」の世界があつて、我々の日常生活は分別(自己分別)の世界であり、煩惱(自分都合の悪い自分の為)に生きているの世界です。一如の世界は自分と他のいのちの一つであり、分け隔てのない世界です。悟りの世界です。仏さまの影響を受けることは「光」を感じることでしようか。お浄土を感ずることが出来て「可視光」、人として器が大きく変われます。「光」にあることは、自分で感じることでです。

松月先生は「みなさん、少しずつきりされましたか?」と締めくくられました。今回は宗教の本質と命題を分かり易く講義いただきました。やはり形の見えないものは文章化するの難しいですね。まとめは平凡ですが、「自分自身に問いかけて努力する」です。

おいさん 合掌





### 秋のお彼岸法要のご案内

朝晩ずいぶん過ごしやすくなりました。皆さまいかがお過ごしですか？ご法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

●日時 九月二十三～二十五日

日時	午後一時半～	午後七時半～
二十三日(土)	法話	法話
二十四日(日)	法話	法話
二十五日(月)	法話	落語会

●講師

藤谷 知道 先生  
二十三日昼～二十四日昼席  
宇佐市 勝福寺住職

落語会

二十四日夜7時から

- ◆四代目 桂 梅團治さん
- ◆二代目 橋家 蔵之助さん
- ◆桂 小梅さん

梅團治師匠のコメント

東京と大阪、東西の真打が競演する珍しい落語会です。



福岡大学卒の梅團治、北九州生まれの蔵之助、福岡県に所縁のある二人の高座に乞うご期待。どうぞ、ご来場ください。



昨年の落語会



一昨年の秋彼岸法要

### 世話人会議報告

日時

二〇一七年六月二十四日午前十一時より

開催場所 念信寺庫裏お内仏

出席者 世話人20名 責役・総代4名 住職、坊守、前坊守3名

(欠席事前連絡3名、連絡なし1名。事前連絡の方には、議事に関して議長に一任の了解をいただいています。)

決定事項

・今年の本山納金は5,000円。秋彼岸に納めていただくことになりました。よろしくお願いたします。

検討事項

・今後のお寺の修繕その他についての経費は、委員会を設置し検討する。

### 法座予定

二〇一七年

●(一)正忌・報恩講  
十一月二十一～二十四日

長倉 伯博 師(鹿児島市)

二〇一八年

### 春彼岸法要

三月二十五～二十七日

祖父江 佳乃 師  
(名古屋市)

### ●皆作永代経彼岸法要

六月三〇～七月二日

松月 博宣 師  
(糸島市)

### 連絡事項

・世話人会議は、基本的に年4回法座の最初の日に行います(11月の御正忌報恩講の折は、一週間前くらいに開催)。1年前から年間スケジュールを寺報『仏法領』に掲載していますので、ご覧ください。できるだけ、土日を中心に行うようにしています。



### 本山納金とは

本願寺は全国の門信徒によって成り立っている教団です。それによって京都の東本願寺ならびに全国30教区の宗務所や宗派の関連組織を運営し、教化活動を行っています。門信徒数に依ってお寺ごとに本山から依頼される負担額です。宗派の予算は同朋新聞の7月号に公表されています。念信寺そのものの護持金は今のところ、いただいております。

### 議事内容

1. 2016年度本山納金決算について

松尾前総代より監査報告。

2. 2017年度本山納金について

昨年は2010年からお願いしていた8千円の見直しでしたが、今年検討することになっていました。

①これまでの経緯から以前の6千円が妥当でないか。

②今後のお寺の補修については、負担を軽くするため少しずつ積み立てるのが良いのではないか。

③本山納金の依頼額を門徒数で割ると5千円をお願いすれば足りる。

これらを踏まえて、皆さんの意見は、20名中、3名が5千円、それ以外は6千円。念信寺の補修に関しては、用途をはっきり

して別会計で、ということでした。

ちなみに本山納金として集めたお金は、それ以外の目的に流用したことはありません。そこで、根拠のはっきりした額をお願いする。門徒さんの財的、精神的負担をできるだけ軽くする。そのような理由から、総合的に判断して5千円をお願いすることになりました。

### お寺の活動

盆踊り後の慰労・懇親会



お盆前のおみがき



永代経お斎

永代経お斎

毎月の読書会

あともがき  
寺報編集がやつと終わった。いつまで続くのかともありますが、新しい発見があります。今号のテーマは、「いのちのつながり、源」でした。

待ち遠しかった涼しい秋風が吹いて、過ごしやす季節になりました。美味しい厚川米の稲穂もすっかり成長して収穫のときを待っています。行事の多い短い秋が、穏やかに過ぎることを願わずにはられません。

